おちほ

第49号　平成16年６月20日　発行　社会福祉法人　椎の木会　落穂寮　発行者　山下　陽一

みんなでワッショイ！氏神祭

五月一日、今年も氏神祭が青空の下、行われました。

今年のおみこしは朝のかお、「めざましテレビ」からめざまし君、このテレビのコーナーで登場するトロ、ジュンの三体。めざまし君は一時期ブームだった「太鼓の達人」にも見える為か、顔をバシバシ！　と叩いて行く子供もちらほら…。　ハッピに着替えた寮生さんは血が騒ぐのか、みなさんとっても元気！

東寺グランドまでの坂道を「ワッショイ、ワッショイ！」のかけ声と共に登っていきました。沿道にはたくさんの方がみこしを見に来ておられ、声援を送って下さいました。

グランドへ到着すると各施設のおみこしの発表を行いました。毎年流行のアニメや話題のものをおみこしにするので、どの施設を見てもとても工夫を凝らしたものばかりで素晴らしかったです。

帰りは下り坂なので楽なはずなのですが、みんな疲れきってしまったのか、かけ声が小さくなっていましたが最後まで頑張り、無事落穂までかつぐことができました。きっと今年一年、みなさん元気に過ごせることでしょう…。

ふくし今昔

農家業に奮闘する「浦谷勝子」さん

理事長　増田正司

ついこの間、守山農協直売店に買い物にいった。そこで思いもかけず（旧姓斉藤）浦谷勝子さんに出会った。私の所に野菜がたくさんあるからと誘われ、ついていった。椎の木ホームの勝見君からハウス栽培でがんばる勝子さんの様子は聞いていたが、着いてびっくり大きなハウスの10余か所にぎっしり育っている作物、規模の大きさに圧倒された。また鉄骨造りの巨大建物の中に山のような精米機や似たような機器立ち並んで、大型トラクター5台、コンバインが並ぶ。請け負った田畑をいれ26町歩の米つくりと10余棟のハウス栽培にがんばっている。

瀬田川沿い大津市南郷新浜の落穂寮に就職したとき、浦谷さんは20歳出たての青春真っ盛りの、大柄で飾り気なく開けっぴろげな人柄に寮生がひかれ、「勝子先生」とすぐ慣れ親しんでいった。

斉藤ちかおばぁちゃんが寮長であったので、「勝子先生」と呼ばれた。僕はいつのころからか彼女を「お勝っさん」と呼ぶようになった。お勝っさんは在職中、調理の現場、養鶏班の現場でいつも活動的で明るくがんばった。作業にのれるものや学齢をこえた寮生の生活指導、作業指導を担当した。早朝6時30分の起床から就寝9時近くほとんどつききりの世話に明け暮れる毎日だった。そうした献身が寮生の人間形成に投射し、幸せをつくるという考えだ。

むかし県青連（滋賀県青年団連合会）で活躍していたころの仲間（国会で活躍中の岩永衆議院議員もその一人）を誘って、寮生への励ましと慰問が実現した。

寮生の成長を祈る思いを深めるためか、教会を訪ね宗教者の清新な体験に感動し、自己の人間性を高めようと努力するのだった。

農業が好きですと、ご縁があって結婚のため惜しまれ退職された。

久しぶりに出会った彼女は、今はとても幸せです、しんどい毎日ですが生き甲斐を感じて過ごしていますと。

後継の長男、次男ともどもに農業を志し、両親のもとで一緒に汗を流している。

二人の息子にいいお嫁さんがくることを願っています。お世話してください。

（16年5月11日記）

ふくし今昔

理系の壁

寮長　山下陽一

ただのオリンピック

養老猛司先生の「バカの壁」は発行部数が三百万部を超えたそうです。この著作は語り口のやさしさはあるものの、内容は結構難解なもので、なぜこんなに読まれるのか不思議な感じがしています。

これに続く「死の壁」も前著作を追い越しそうな勢いだそうです。この終章に知的障害に触れておられ、それが「ただのオリンピック」です。先生ご自身が二〇〇五年冬に長野県で開かれる知的障害者のための「スペシャルオリンピック」の仕事を手伝っておられる様子で、最新技術を駆使されて記録が追求される近代オリンピックと知的障害者のあるひとたちによるスペシャルオリンピックを比べると、どちらが「ただのオリンピック」なのかと問いつつ、知的障害についての捉えかたを述べられています。

情報屋の壁

先生ご自身「差別を肯定するのか」と言う人がでてくるかもしれない、と断ったうえで、『人間の力の及ばぬところで出てきた結果は、仕方がないと思うしかない。背が高いとか低いとか、色が白いとか黒いとか、地震や噴火も「仕方がない」ことです。知的障害も同じことです』と述べられています。

さて、解剖学を生涯の研究テーマとし還暦を過ぎた先生に対し、われわれ知的障害のある人々に接して長年仕事をしてきた者から、大向うをうならすことなどとてもできませんが「小手先に技あり」程度のことを試みてもよいのではないかと思う次第です。

まず「仕方がない」ということについて。どうしようもないことだからその部分は置いておいてということなのでしょうが、選択肢が一つひとつ無くなっていく過程が悩みとなっているわけで、時々刻々スイッチをオンオフすることができないのが実際でしょう。「バカの壁」では脳といういわばコンピュータに情報を書き込んでいるようなものだとしておられますが、一つのプログラムソフトをスイッチ操作一つで使わなくするように人間はできていないのではないかと思えるのです。このようなところに「理系の壁」とか「情報屋の壁」があるのではないか。

私は、先生ご自身が「はっきりしないこと」として述べられている二点を挙げたいと思います。それは、先生のご尊父について、先生が四歳のころに結核でお亡くなりになったそうですが、『その「父の死については、よく思い出しました。しかし本当に受け止められたのは、三十代のころだったと思います。（略）そのころ、ふと、地下鉄に乗っているとき（略）初めて「父が死んだ」と実感したのです。』という部分。他の一点は『三十代の後半の一時期、私は動物や虫を殺せなくなったことがありました。急に殺生ができなくなった。』とあります。このあたりをどう解釈すべきだろうか。私などの持つ尺度で測りうることではないことも承知のうえで考えてみるに、三十歳後半あたりで先生ご自身のこころの内部に何かが置き換えられたのではないかと思うのです。これはちょうどサナギが蝶に変態するときに内部も外観も成長の過程に沿って整然と新しいものに置き換えられる。先生の内部にこれと同じようなことが起きたのではないか。これはコンピュータに情報を入力することだけでは起こりえない、いわば「いのち」の発達に沿っていることなので自覚されようがない。このようなところから漠然とした表現となっているのもうなづけます。

なぜ三百万部か

冒頭に挙げましたように、先生の述べられている内容は難解そのものの感があります。それなのになぜ、かくも読者が拡大しているのか。これを考えたとき、現代人の思考形態が象徴されているのではないかと思うのです。コンピュータは現代社会では欠かせない道具です。しかも私たちの目の前にテレビ画面があり、タイプライターのようなキーボード装置があるとそれを実感できるのですが、私たちが知らない見えないところにどんどん浸透している所にその怖さを感じます。そして、脳の機能もコンピュータの機能と相伴って理解するときわめて素直に納得されることから説得力ある理論となります。私はこのようなところに「理系の壁」から「いのち」を観ている危うさを感じます。本当にこれでいいのだろうか、と。

（二〇〇四・五・七）

新人（？）紹介

春のニューモデル 男1名 女2名 車1台

初めまして、**伊武陽子**（いたけようこ）です。私は今年の3月に大阪医療技術学園専門学校の医療福祉心理科を卒業し、この4月から落穂寮職員として男子棟で働いています。

「働いている」といっても、毎日が新しいことの連続といった感じで、まだまだ不慣れな私です。先輩方、寮生の方達にも迷惑をかけてばかり……。1日の流れというものに心も身体も慣れ、もう少しゆとりを持って寮生の方達と触れ合えるようになれれば、と思います。私という存在が、この落穂寮の寮生の方達にとって、〝居て当たり前の人〟だと思ってもらえるその日が、1日でも早く訪れてくれる様に、忙しさにかまけず、心を添えて、日々寮生の方達と関わっていきたいです。

この4月から私は落穂寮職員宿舎で生活を始めたわけですが、実家は兵庫県伊丹市なので、滋賀のことはまだ全く、と言っていい程分かりません。裏道など知るよしもなく、国道1号線を走るのみです…。誰か私に裏道を教えて下さい…。

この4月から始まった私の生活は新しいモノづくしです。分からないことも、戸惑うことも多々あります。寮生の方達、先輩方、保護者の方々に協力していただきながら、助言をいただきながら、今日より明日、明日より明後日がより素晴らしい日となる様に頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

滋賀文化短期大学・人間福祉学科・児童福祉専攻を卒業して、やって参りました、四月からお世話になってます、**村田直子**（むらたなおこ）です。

私が、落穂寮への就職を決めるきっかけになったのは、去年の8月に来させて頂いた二週間の実習です。

実習の担当をして下さった職員さんの、寮生さんへの対応に憧れ、「私もこの人の様な対応が出来る職員になりたい」と、強く思ったからでした。

寮生さんの一人一人の事を考え、一人一人に合った対応をする所。良い所は良い、悪い所は悪いと、しっかりとした所。などを、その職員さんは勿論、たくさんの職員さんを見習い、学んで行きたいと思います。

ここで私の今年の目標を決めたいと思います。

◎イライラせずに、怒ってカッとならない様にして、何事も冷静に対応をする。

◎相手の気持ちを考え、見つめられるようにする。気持ちの横に立ってみる。

です。どこか抜けていたりする私ですが、自分なりに頑張りたいと思います。抜けていたり、目標が出来ていなかったら、注意して下さい。どうぞ、よろしくお願いします。

中にはすでにご挨拶させて頂いた方もいらっしゃいますが、この場を借りて改めて自己紹介させて頂きます。

皆さん初めまして、新人職員の**辻隆夫**（つじたかお）と申します。出身は野洲郡中主町で、実家の近くには「鮎家の里」があり、土日は観光客がいっぱいです。また湖岸は、夏に向けてオートキャンプ場でのバーベキュー等で次第に賑わっていきます。それ以外は田んぼという、田舎で育ちました。

私が福祉と出会ったのは高校一年生の時です。インターアクトクラブ、という聞いたことのないクラブ名で、部員が集らず休止中だというところに興味を持ち、担任の先生に説明を聞きに行ったが最期（ご）、横にいた友人と入部するハメになってしまったのです。そしてクラブ顧問は目の前に居る担任でしたからもう戻ることもできず……。しかしながら、今こうして毎朝寮生さんに「おはようございます！」と挨拶をする度に、「成り行きで入った世界だけど、こうして自分で選んだ職場で頑張れている」と、過去に悔いのない心境です。

今私は新人です。落穂にしても社会人としても、二人暮らしも（余計か）…。先輩職員の方々に引張られ、寮生さんの要求が読み取れなかったり、たくさんの人に迷惑をかけています。早く成長して、寮生さん、その家族の方々、地域の人や他施設の方々の輪に入れるよう努めていきます。

どうぞ宜しくお願いします。

こんにちは、わたしも一応新人です。

みなさん、はじめまして、こんにちは。今年から落穂寮で働くことになった**キャラバン人**（きゃらばんと）です。4月に日産の工場からやって来たまだピカピカの新車です。簡単に自己紹介をさせてもらうと色はシルバーで10人乗り、排気量は二四〇〇ccでMDデッキもついています。今はまだ慣らし運転中ですので控え目に走っていますが、これからグングンと走っていきたいなと思っています。でもスピードの出しすぎには注意して下さいね。職員のみなさん、お願いしますよ。さて後部のガラスに大きく〝落穂寮〟と名前も入れてもらって落穂寮の仲間入りをしたボクですが、さっそく寮生さんのドライブや通院にと毎日大いそがしです。寮生さん達も新顔のボクに乗るのを楽しみにしてくれているようなのでとてもうれしく思っています。これから長～いおつき合いになると思うので大切にしてくださいね。寮生のみなさん、お願いしますよ。同僚のバスくん、トラックくん、マーチくんと落穂寮のために頑張っていきたいと思うので応援よろしくお願いします。最後にボクと入れ替わりに引退された**キャラバン太**（きゃらばんた）さんの事を。かれこれ10年以上も落穂寮のため走り続けてくれました。寮生さんも職員さんも感謝の気持ちでいっぱいだと思います。本当におつかれさまでした。ありがとう。

先代、キャラバン様、おつかれさまでした。

ああ、二年越しの遠足…。

四月十八日に男子棟は春の遠足に行きました。ここ二年、雨の為に現地まで歩く事ができず、近場に変更したり、バスで移動と遠足らしい事ができませんでした。

しかし、今年は見事に晴天！

何の心配もない天気でした。（今年の新人職員は晴れ男と晴れ女？気になる人は新人紹介のページを見て下さいね。）

今回の場所は悠紀の里の近くの公園に行きました。（ちなみに二年前から場所は決めていました。）寮生さんの能力、体力に合わせて、四つのグループに分かれて歩いてもらいました。

中でも一番長いコースの寮生さんは、落穂寮→公園まで歩くのですが、距離にして約十キロ！往復なんと二十キロ！ハーフマラソン並の距離です。途中、休憩等もしましたが、寮生さん達はがんばって歩いていました。これも毎日の歩行の賜でしょうか？

おまけに四月というのにとても暑く、みんな日焼けをして、夕方お炊事の方々に「みんな真っ赤やねー。がんばったんやねー。」と言われました。

今年度の一番最初の行事を無事終える事ができました。

来年もぜひ、晴れてほしいものです。

▲みんながんばって歩きました

◀青空の下のお弁当は最高です！

◎本格的！な飯盒炊さん

五月二日に男子棟では親子合同飯盒炊さんを行いました。ちょうど五月帰省の帰省日にもなるので、保護者との交流を深める為に毎年行なわれています。

飯盒炊さんのメニューといえばカレーライスがよくありますが、「カレーはちょっと苦手…。」という保護者からの意向もあり、担当職員二人が考え、焼きそばに挑戦する事になりました。焼きそばだけでは物足りないので、ごはんと大根だきもセットにしました。しかしこだわり派の担当職員は、「飯盒炊さんなんだからごはんも飯盒でしなくちゃ！」とごはんも飯盒で炊く事になりました。

午前中は準備、担当職員はカマドを作って火おこし。手伝える寮生さんもテーブル・イスなどを運ぶのを手伝ってくれました。

いよいよ料理開始。カマドに飯盒を置いて大なべに大根だきを作り始めました。焼きそばはカマドではなく、屋台でおなじみの鉄板を使って作りました。（落穂寮にはこんな物もあるのです。）

保護者の方々や寮生さんも飯盒や鉄板の焼きそばを興味深げにのぞいていました。

結果は大成功！　飯盒のごはんもバッチリ炊けていたし、焼きそばも大好評でした。おいしい昼食をとりながら親子、職員共に交流を深め、楽しい時間を過ごすことができました。

▲親子でチーズ。

▲おいしくいただきました。

二年越しのおてんとう様

四月十八日に町内にある、十禅寺公園へと行って参りました。去年、一昨年と天候に恵まれず不完全燃焼の遠足だったのですが、今年は、行けなかった二年のお日様が一気に照ったと言わんばかりのカンカン照りでした。

二班に分かれて出発したのですが、いつもとは違うお揃いのジャージを着て、いつもは脱力感いっぱいで歩かれている寮生さんもウキウキしてくるのか、元気に歩かれていました。

公園までの道のりは、遠足となっているのですが実際四十分程で着いてしまうので、お弁当を食べるまでは、アスレチックで遊ぶ人、写真を撮って欲しくてカメラを持っている職員の前をうろつく人、公園の草が気になり草むしりを始める人など、ちょっぴり変わってはいますが思い思いにすごされていました。

さあ、いよいよお弁当です。箱が大きく、抱えるのも必死なくらいの大きさだったのですが、みんなは一生懸命懐に抱えて食べておられました。

食後も食前同様で、シートの上でのんびり過ごす人や、ブランコやすべり台にも挑戦する姿もあり笑顔いっぱいで過ごされていました。犬の泣き声に怯えて泣き叫びだす寮生さんや、調子を崩される寮生さんもおり、すべてがうまく行った訳ではありませんでしたが、雨で中止になるよりかは比べ物にならないくらい楽しめていたのではないでしょうか。

大成功

5月の帰省日に毎年恒例の親子飯盒炊爨が今年も行われました。女子棟の名物になるんじゃないかと思うくらい毎年シャバシャバの失敗カレーが出来あがっていたので「今年こそは！」と職員は意気込んでいました。

前日までのムシムシとした暑さはどこへやら、朝から天気は良いものかなりの強風でした。しかし、日が照っている限り、やはり女性には紫外線は禁物と言うことでテントをたて、風で飛ばないかと最後まで冷や冷やものでした。

作り始めて、煮込まれ始めると匂いにつられて寮生さんも外へ出てきてカレーが無事出来るのを待ちわびていました。

配膳し始めると、匂いだけでは満足できず次々と周りに集まってきました。それには、空腹ともうひとつ。「今年のカレーは何だ？」という好奇心からでしょう。今年は、チーズカレーと温泉卵が上に乗ったキーマカレーでした。キーマカレーはあまり馴染みがないものなので、寮生さんや保護者の方々の一部からは「いらん」や「普通のカレーがいいわ」とちょっと残念な声も聞こえてきました。皆は2膳目の普通のカレーが早く食べたいのかキーマカレーをあっという間に平らげてしまい、「おかわり、おかわり…」とどこか慌ただしく、例年ほどゆっくりとはできなかったのが残念でした。

本当にありがとうございます

昨年、痩せ地から肥沃な土地に変身した、落穂寮の猫のひたいほどの畑に、今年も北村勇さんと吉川ちえ子さんが来て下さいました。昨年は北村さんが主に植えて下さったキュウリ・トマト・ナス・ツルムラサキ・サツマイモ・大根・白菜など、今までこの十何年もの間、見たこともないほど沢山の野菜が一年を通してたわわに実り、寮の食卓を賑わせてくれました。これまでは、収穫できる程沢山実らず、また実っても食卓に上がるまでに寮生さんに食べられてしまっていたのが、とられてもとられても実る方が多かったため、寮生・職員共に口にすることができたのです。といっても、現場の職員には野菜を育てる知識も経験もなく、手入れをしに来て下さった北村さんや吉川さん、そして炊事の職員の方々に、おんぶにだっこの状態で、できたものをただただおいしく頂くだけの道楽ぶりな私達でした。

さて、今年は、寮生さんが実り前の作物をとらないようにケアするのはもちろんのこと、それ以上に何らかの形で少しでも野菜作りに関われたらと思います。

皆さん、本当にお世話になり、ありがとうございます。

吉川　ちえこさん

北村　勇さん

泉

▽新年度がスタートしました。毎年同じように時が流れてゆくのですが、決して同じ事は起きないのです。一年かけて、やっと落ち着いてきたところ、ホッとひと息つくや否や、新たな人間関係に不安定さを見せ、また一から築き直す事を強いられることのしんどさ。職員よりも、そのしんどさを言葉にできず、行動でしか表わせられない人達。それを理解し、受け止めきれない人達。毎年この「おちほ」の最初の泉には同じような事を書いているのに気付き、職員の不安が伝わっているのかもと考えさせられました。今年もやはり、「怒らず」「叱らず」「ぶつぶつ言わず」をモットーに頑張っていきましょう。

木言（こと）

きれいに咲く年もあれば、そうでない年もある。沢山実る年もあれば殆んど実らない年もある。全てがうまくいくわけではない。人・自然・環境など沢山の物事がそこに影響しているのだから。でもそれでも着実に成長しているはず。私達の目で見えないところで、土の中で、心の中で。